

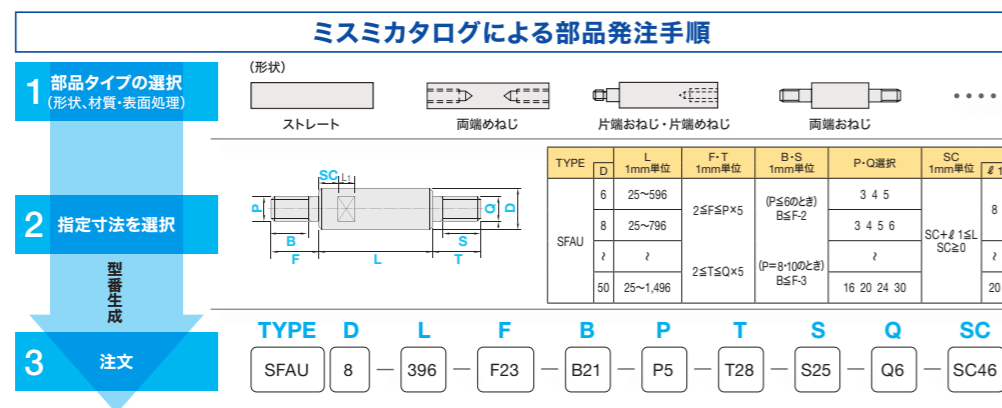
MTOの強み

ミスミのカタログでは、部品のサイズをミクロン単位で指定することができ、このバリエーションを含めると、ミスミの取り扱い商品アイテム数は800垓（1兆の800億倍）を誇ります。この中からどの部品が、いつ、どこから、どの量で注文が入っても、確実短納期でお届けすることができます。

商品標準化による抜本的改革

MTO (Make To Order:受注製作品)で大幅な時間短縮を実現

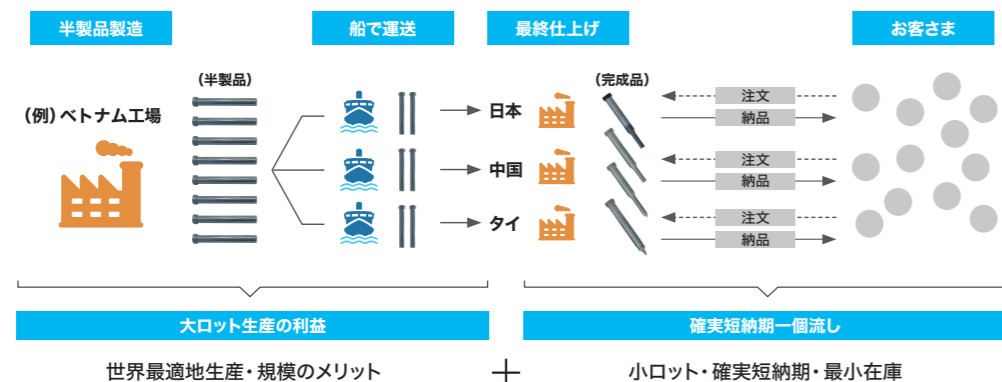
機械部品はそれぞれに設計が異なり、設計者が部品ごとに図面を描き、複数の部品加工メーカーに見積もりして発注する必要がありますが、ミスミのカタログでは特注品である部品を「標準化」して掲載しており、部品の寸法や仕様を一覧表から選ぶだけで発注可能になります。



矛盾する2つの競争優位性を両立

在庫を最小限に抑えながら豊富な商品バリエーションと低コスト、確実短納期を実現

半製品をベトナム工場などで大量生産し、消費地でお客さまの注文どおりに「確実短納期一個流し」で最終仕上げを行います。



デジタルものづくりへの対応の進化

世界中の製造、自動化現場でデジタルものづくりが加速度的に進む中、当社では、従来の紙カタログ、WEB（オンラインカタログ）を超える新たな時間価値を提供するミスミならではのユニークな展開として、3D-CAD連携ツールを提供するなど、デジタルものづくりへの対応を進化させることでお客さまの非効率解消にお応えします。



紙カタログに次ぐ第2のメディアとしてWEB（オンラインカタログ）を強化。オンラインカタログは、約800垓（1兆の800億倍）におよぶ商品バリエーションのフル検索対応が瞬時に可能になり、商品の検索・選定において圧倒的優位性を確保。

WEBに続く第3のメディアとして設備設計担当者が使用しているCADを位置付け、3D-CAD連携サービスの拡充を加速。「meviy（メビー）」、「RAPID Design（ラピッドデザイン）」、「MISUMI FRAMES（ミスミフレームズ）」のサービスを提供。今後もデジタルものづくりへの対応を強化することで、部品調達領域における製造業DXを推進し、調達にかかる時間を劇的に削減。お客さまにはその時間をより付加価値の高いコア業務に充てていただくことで、製造業全体の品質向上、生産性向上に貢献。

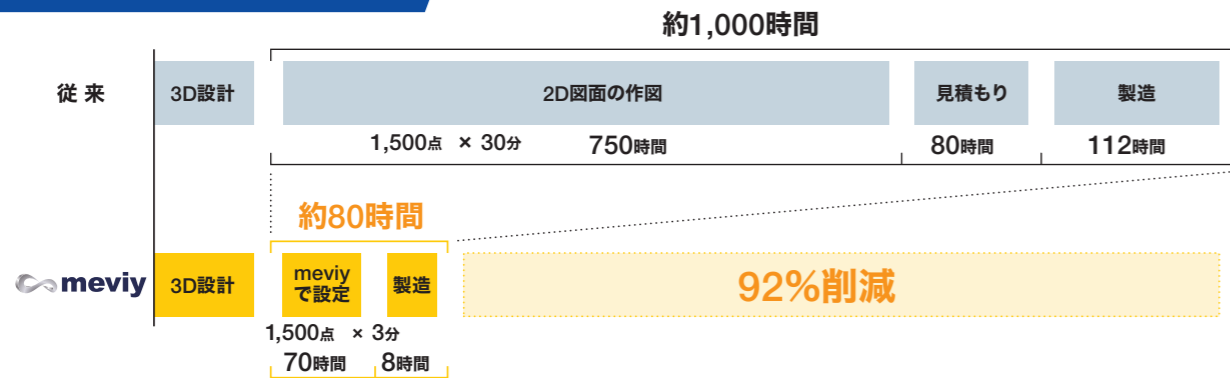


デジタル部品調達サービス「meviy」が実現する調達改革

meviyは、機械部品の見積もり、製造をデジタル化。3D-CADによる設計完了後、2D図面の作成から見積もり取得に至るまでの、何十時間もかかる作業を1分に短縮しました。部品の設計データ(3D-CADデータ)をアップロードすると、AIが即時に価格と納期を回答、製造プログラムの自動生成により最短1日出荷を実現しました。

カタログへの掲載が難しい複雑な部品でも人手を介さずにデータのみで簡単に調達することが可能になりました。

部品点数1,500点の設備の部品調達の場合



meviyを支える2つの独自革新「フロントエンド革新×バックエンド革新」

フロントエンド(顧客側)	バックエンド革新(製造側)
<p>AI自動見積り</p> <p>形状認識エンジン 設計データから形状を読み取り、製造できない場合、AIが判断して理由と改善策を自動提案。</p> <p>価格計算アルゴリズム 設計データから必要な加工技術・価格・納期を即座に計算することで、即時に見積もり結果を回答。</p>	<p>デジタルものづくり</p> <p>100万行超の製造パラメーターを定義することで、設計データから製造プログラムを自動生成することが可能に。これにより、低コスト・短納期(最短1日出荷)で商品をお届け。</p>

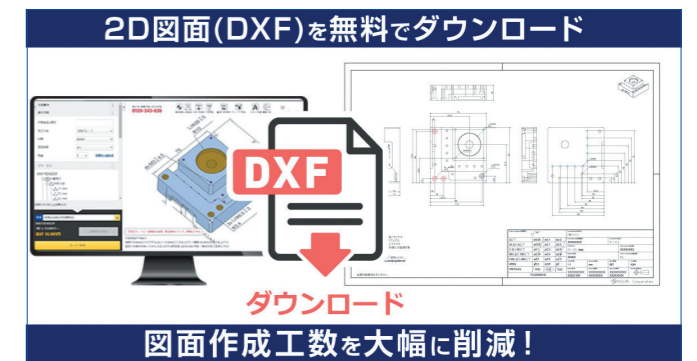
商品領域拡大で更なる「顧客時間価値」の向上を図る

meviyはさまざまな顧客の声を収集し、迅速にサービス開発へ生かしています。

3DCADデータから2D図面(DXF)の自動作成を実現

2023年4月より、「2D図面自動作成・ダウンロード機能」を開始しました。meviyにアップロードした3Dデータから自動で2D図面(DXFフォーマット)が作成され、ダウンロード・編集が可能となります。

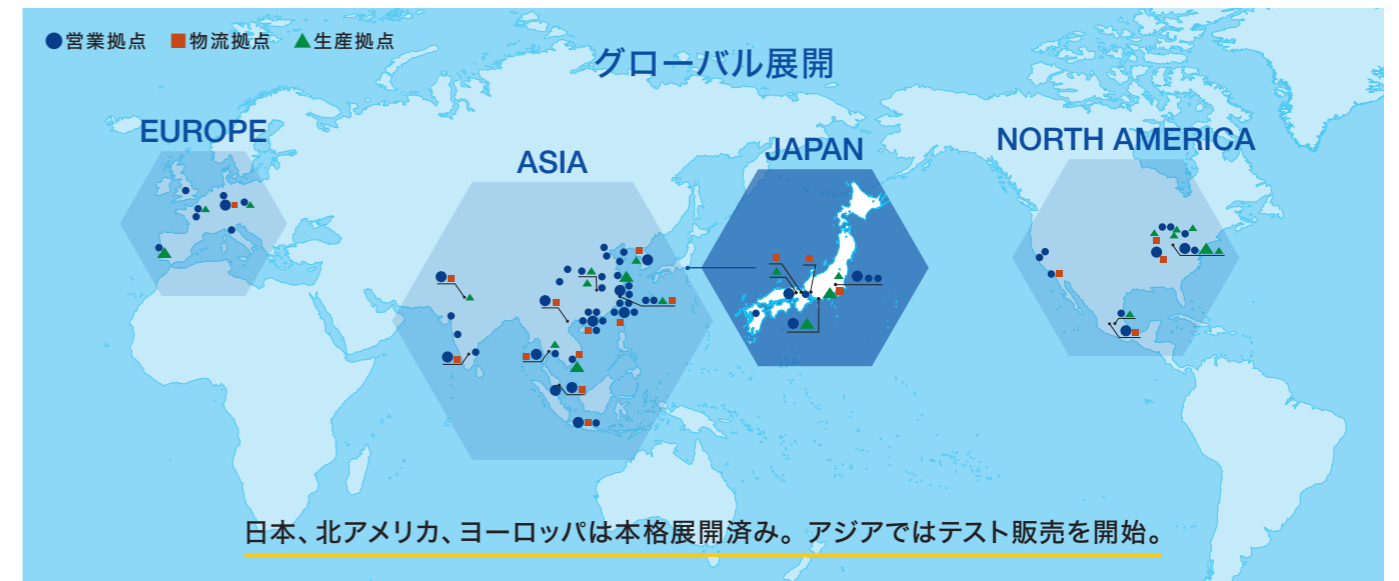
設計業務の3D化が進んでいる現在でも検図・社内図面管理といった調達以外の領域で2D図面を必要とする業務が残存しており、これまでにたくさんのお客さまから機能開発の要望をいただきました。今回の新機能は、検図や社内図面管理でお客さまが必要とする2D図面作成工数を9割削減し、製造業全体の生産性向上に貢献します。



meviyグローバル展開

2016年にサービスを開始したmeviyはこれまで、お客さまのニーズにお応えし、商品領域の拡大、サービス機能のアップデートを重ねてまいりました。

2021年度からは、グローバルへの展開もスタート。自動化装置設計需要の高い地域でのさらなる事業拡大を図っています。meviyを通じて世界中のどこからでも簡単に部品を調達できるプラットフォームとして発展させ、お客さまにさらなる「時間価値」を提供していきます。



▶ メーカー事業

ものづくり日本大賞 内閣総理大臣賞を受賞

「meviy」は、その革新性や産業社会発展への貢献が認められ多方面で高い評価を受けています。これまで権威ある10個の受賞。2022年度には、11個目となる第9回ものづくり日本大賞「内閣総理大臣賞」を、meviyの事業グループが受賞しました。

これは日本の産業・文化の発展を支え、ものづくりの第一線で活躍する各世代のうち、特に優秀と認められる方々を表彰する制度です。「内閣総理大臣賞」は、その中でも最も優秀と認められたものになります。

meviyのユニークな機能による設計・調達プロセスの非効率解消効果は絶大です。人手不足・時間不足などの社会課題を解決したい、というmeviyに託す思いは、まさにミスミが目指している「顧客時間価値」の向上です。



岸田文雄内閣総理大臣(左から3番目)と記念撮影する受賞者たち

meviy受賞歴

- 2015 「GOOD DESIGN賞」
- 2019 「CEATEC AWARD 2019」スマートX部門グランプリ
「情報化促進貢献個人等表彰」経済産業大臣賞
- 2020 「第62回十大新製品賞」本賞
「第49回日本産業技術大賞」文部科学大臣賞
「Impress DX Awards 2019」アプリケーション部門グランプリ
「第3回日本サービス大賞」JETRO理事長賞
「第36回素形材産業技術賞」経済産業省製造産業局長賞
- 2021 「第9回技術経営・イノベーション大賞」科学技術と経済の会会長賞
「第9回ロボット大賞」日本機械工業連合会会長賞
- 2022 「第9回ものづくり日本大賞 内閣総理大臣賞」

部品調達領域のDXを牽引する存在に

部品調達課題に対しデジタル技術で解決に取り組む「meviy」は、権威ある11個の受賞に加え、オンライン機械部品調達サービス3年連続国内シェアNo.1※を獲得するなど、インダストリアル・オートメーション現場におけるDXを牽引する存在へと成長を遂げています。

※ (株)テクノ・システム・リサーチ調べ

CHECK! 3年連続 国内シェアNo.1

meviyは2022年オンライン機械部品調達サービス国内市場における調査※で、利用ユーザー数シェア第1位となる57.0% (前年比+1.5pt)を獲得。2020年以降3年連続の首位獲得を達成しました。

▶ 流通事業

VONA事業による流通革新

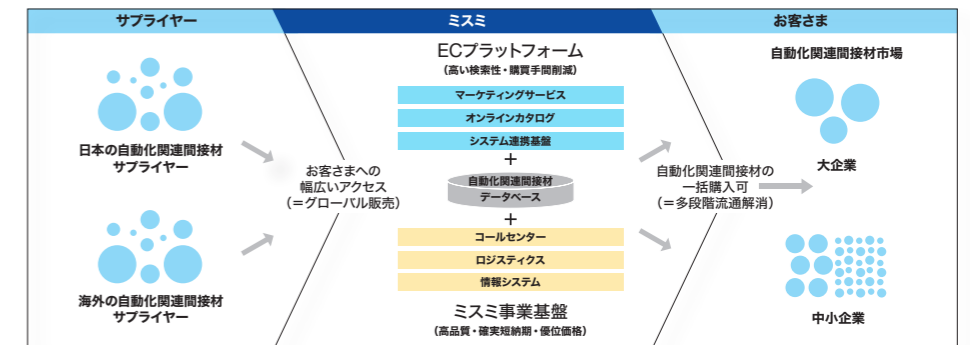
ミスミの流通事業であるVONAは、ミスミブランドの商品に加え、工具や手袋をはじめとする生産、自動化現場で使用する製造副資材や消耗品を含む他社ブランド商品も取り扱うプラットフォームとして、2010年よりスタートしました。事業ブランド名VONA (Variation & One-stop by New Allianceの略) に込めた思いを実現すべく、今後も取り扱いブランドおよび品揃え強化を図るとともに、ECサイトを継続的に進化させていくことを通じ、グローバルでの事業拡大を目指していきます。

自動化関連間接材のワンストップ購買を可能に

VONA事業を開始したことにより、製造、自動化現場で使用するさまざまな商品をワンストップで効率よく調達したいというお客様のニーズと、サプライヤーとして自社販売網以外に販路を拡大したいという自動化関連間接材メーカーのニーズをグローバルでつなげることが可能になりました。

国内取り扱いメーカー 3,000社超

国内における取り扱いメーカー数は3,000社を超え、製造業、自動化向けの品揃えとしては最大規模を誇ります。



豊富な商品ラインナップ

地域ごとに異なる顧客ニーズに即時対応すべく、品揃えを強化しています。

また、グローバルで各地域に根差したECサイトを構築。現在では、16カ国12言語のECサイトを展開しており、取り扱い商品点数は3,000万点超、商品バリエーションは800垓(1兆の800億倍)と豊富な商品ラインナップを簡単に検索し、見積もり・発注することが可能です。

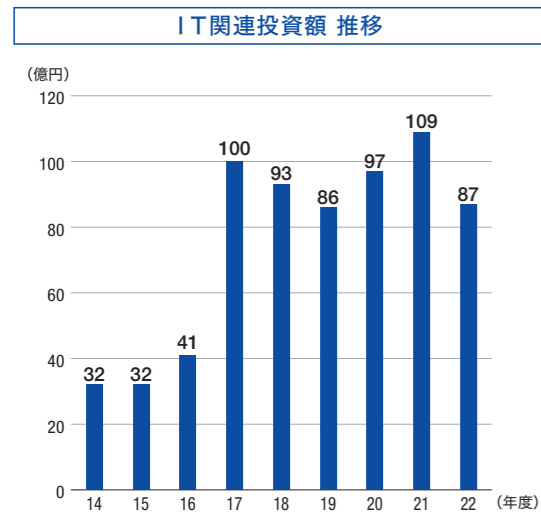
		取り扱い商品				
メーカー事業	FA用メカニカル標準部品	シャフト	タイミングプーリ	リニアプッシュ	平ベルトコンベヤ	
	位置決め・計測機器 (OST事業)	セットカラー	位置決めピン	歯車	カップリング	
事業	プレス金型・プラ型用標準部品	パンチ	ボタダイ	エジェクタピン	スプルーブッシュ	
VONA事業	メカニカル商品/ねじ・ボルト・座金・ナット	センサ・スイッチ	継手	ねじ・ボルト・ナット	キャスト	
	配線部品/制御部品・PC部品	コネクタ	スイッチ	ケーブル	トランス	
	切削工具/生産加工用品	エンドミル	六角棒レンチ	施錠用チップ	ノギス	
	梱包・物流保管用品/安全保護・環境衛生・オフィス用品	台車	作業用手袋	パーツクリーナー	研究開発用品	

※ OST: Optical&Scientific Technology

ミスミ事業モデルを支える強固なIT基盤

当社は、800垓（1兆の800億倍）にもおよぶ商品バリエーションを持ちながら、お客さまに対し、受注製作品・在庫品問わず、ECプラットフォーム上で瞬時に価格や納期を提示することが可能です。これを実現するためには、創業以来蓄積されてきた自動化材データベースを基幹に、顧客と向き合うフロントエンドと当社側のバックエンド双方のデジタル革新が必要不可欠です。メーカー事業と流通事業を支える強固なIT基盤として、デジタルモデルシフトへの対応を加速しています。

積極的な投資でIT基盤強化を加速、さらなる事業成長を支える



当社では、持続的な成長に向けた攻めの施策として「IT基盤強化」を重要な施策として位置付け、積極的なIT関連投資に取り組んでいます。

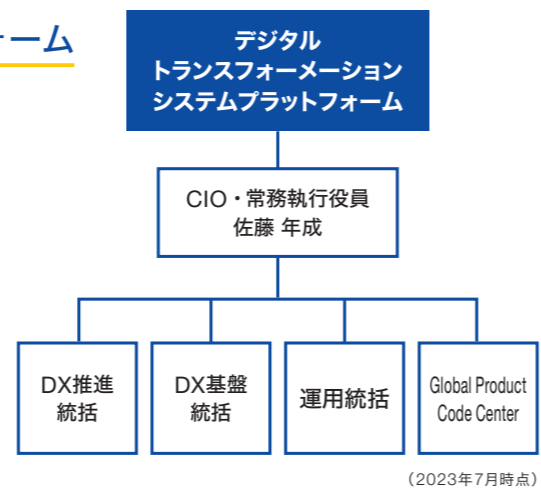
2017年度には、地域別の顧客ニーズに最適化したECサイトをグローバル展開し、国ごとの商慣習に合わせた画面デザインや機能のカスタマイズ、検索性の向上など利便性を追求してきました。また、2019年度にはシステムを完全クラウド化。コスト低減に加え、基幹システムやネットワークにおける信頼性・柔軟性がより一層向上しました。

また、この安定したネットワークを活用し、2021年度からは、全現法における基幹システムの全面刷新を本格的に開始しています。インダストリアル・オートメーション顧客の非効率徹底排除を実現する、より革新的なサービスの開発効率改善を目指します。今後も最適な先端技術を取り込み、さらなるIT基盤強化に取り組んでいきます。

デジタルトランスフォーメーションシステムプラットフォーム

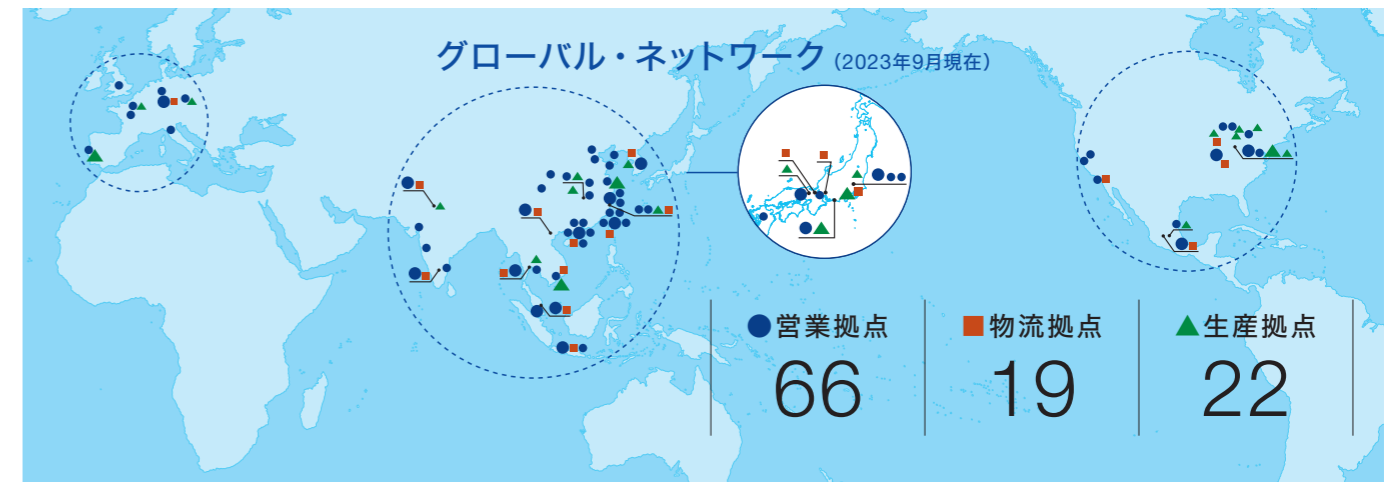
2020年10月、CIO・常務執行役員の佐藤年成が代表執行役員を務めるデジタルトランスフォーメーションシステムプラットフォームを創設し、デジタル革新に向けたIT組織体制を強化してきました。ミスミ事業モデルの心臓部である基幹システムの開発を担うなど、当社全体のDX推進をリードしています。また、グローバル全体でもIT組織の横串連携を行うなど、各地域共通で安定したIT基盤の構築に取り組んでいます。

加えて、同組織では、開発サイクルの高速化やセキュリティの強化など多岐にわたる取り組みから、ミスミの使命であるグローバル確実短納期の実現を下支えています。今後も、さらなる成長を支えるIT基盤の構築に伴い、組織体制の強化やIT人材の獲得を積極的に進めていきます。



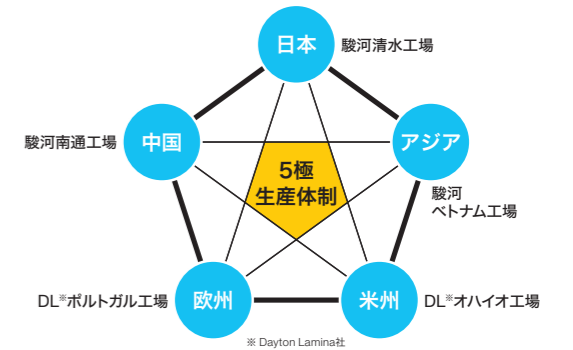
グローバル確実短納期の強化

より一層の競争力強化と商品の安定供給を図るためには、確実短納期体制をグローバルに構築することが必要不可欠です。旺盛な自動化需要への対応に先手を打つべく、日本・中国・アジア・米州・欧州の5極の生産能力を拡充するとともに、グローバル物流体制を拡充し、短納期需要を取り込んでいきます。



グローバル5極生産体制

日本で開発したミスミ生産方式を海外にも横展開することで、グローバル5極生産体制へと進化しています。お客さまに最も近い工場生産をし、確実短納期で商品をお届けするだけでなく、有事の際には直ちに生産工場を切り替えることが可能となり、お客さまに対する供給保証レベルが一層上がっています。現在、中国で新たな生産拠点、物流拠点設立を予定しており、さらなる体制強化を図っています。



生産：自社開発機による「時間価値」への徹底的追求

ミスミでは、「変種変量」というユニークな生産方式におけるリードタイム削減に向け、これまでに培った独自の技術で常に進化を図り、自社開発によるプロセス改善を加速してきました。自社開発機を導入後、その設備と人員を大幅に削減することが可能になり、劇的なリードタイム短縮を実現しました。

物流：自動化の活用により生産性を大幅に改善

より安定した供給体制の構築に向け、グローバルで物流オペレーションの革新に取り組んでいます。2017年、中日本流通センター開設では最先端の自動化オペレーションを導入し、グローバル展開に向けた新たな物流モデルを構築。自動化の導入・オペレーション刷新によって、より高いレベルでの確実短納期を実現し、お客さまからの信頼を一層向上させていきます。また、同モデルを欧州、米州、東日本、中国と展開し、グローバルで物流基盤の強化を図っています。